

特集



ΑΛΕΞΑΝΔΡΕΙΑ

no.45

わたしは、 ブックハンター

選書ツアーにいきませんか？

選書ツアーとは？

学生の皆さんが実際に書店に行き、図書館に入れて欲しい本を直接手に取って見ながら選ぶイベントです。

選書ツアーに参加するには？

随時図書館内などに開催日時等のポスターを貼りだしますので、カウンターに申し込んでください。

選書ツアー当日は・・・

選書する書店に定時に集合！約一時間かけて本選び。これまでの6回はココリア多摩センター丸善書店内で実施しました。

どうやって本を選ぶ？

自分が読んでみたい本はもちろん、友達にすすめたい、勉強にも役立つな、決められた金額内なら自由に選べます。予算は約1万円。

☆選んだ本はその場で購入はしません。
終了後、書店で選んだ本のリストを作成してもらい、図書館で改めて注文します。

本をディスプレイしよう

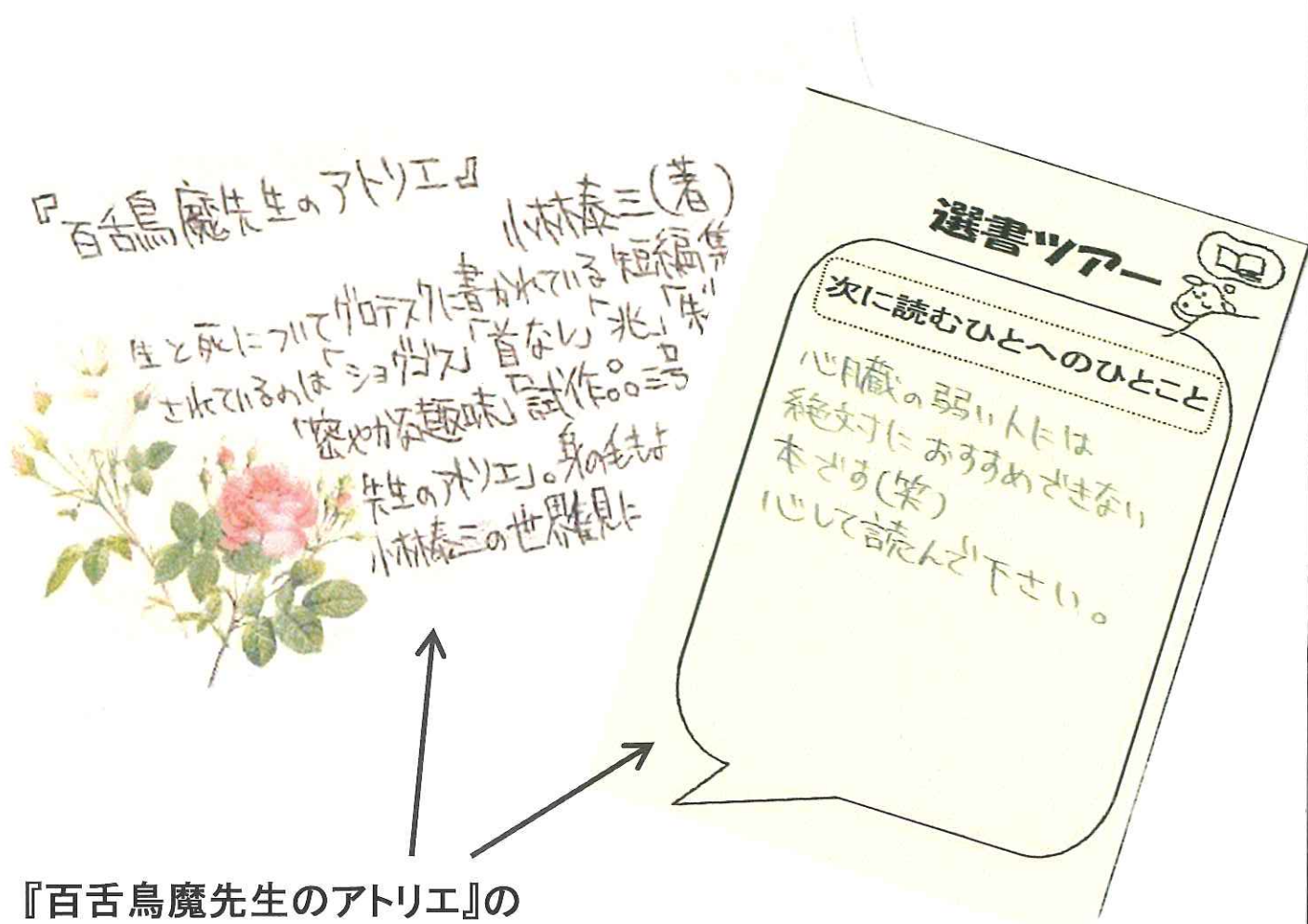
選んだ本が図書館に入ったら展示コーナーに参加者みずからディスプレイします。

「ポップ」作り

その際、選んだ中でも特におすすめの本のために、紹介文などを書いた「ポップ」も作ってもらいます。詳しくは折り込みページの「ポップをつくろう！」を見てください。

選んだ本の反響は？

展示場所がカウンターの前であることもあって、選書ツアーの本は大人気。よく手に取られ、貸し出されています。選書ツアーの本それぞれのブックポケットには、その本を借りて読んだ人の感想が、次に読む人に伝わるように、「次に読むひとへのひとこと」スリッパを一枚ずつ入れていきます。



『百舌鳥魔先生のアトリエ』の「ポップ」と「次に読むひとへのひとこと」スリッパ

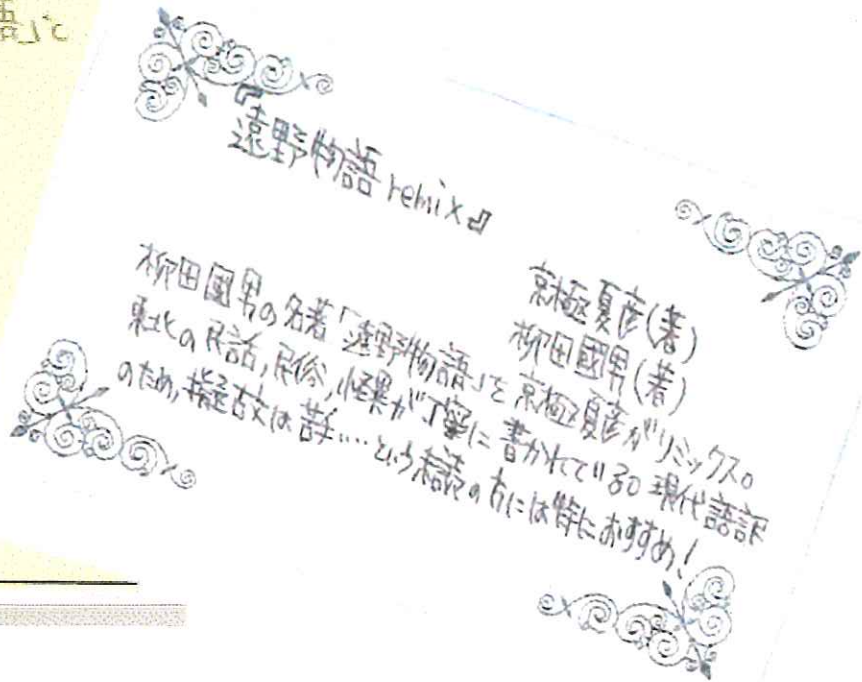
選書ツアー



『遠野物語rimix』の「ポップ」と
「次によむひとへのひとこと」スリップ

次に読むひとへのひとこと

現代語訳なので、
とても読みやすいと思います！
柳田國男の「遠野物語」と
読み比べてみるのも
楽しいかもしれません！



「ブックログ」をみてみよう

蔵書検索ページと
マイライブラリについてへ

すでにご利用の方

蔵書検索ページへ

マイライブラリ
ログインページへ

「ブックログ」ではこれまで
選書ツアーに選ばれた
本のリストやその書評など
がみられます。

<http://mrrc.keisenr...>

ここをクリック！

ウェブ本棚



図書館HPトップページ

『ハケンアニメ!』 辻村深月著
(マガジンハウス 2014年)

いま、選書ツアー
コーナーに
展示中!

選んだ人 浮田侑果 (英語コミュニケーション学科2年)

ONE PIECE、ドラえもん、ポケットモンスター、名探偵コナン…。
皆さんは、どんなアニメが好きですか? 今回紹介する作品は、『ハケンアニメ!』という、アニメ制作現場で働く3人の女性たちが「覇権」(頂点を取ること)をめぐる、悩み、ぶつかり、奮闘する姿を力強く、爽快地に描いたお仕事小説です。

新作『運命戦線リデルライト』のオンエアを控える中、監督の失踪という窮地に陥ったプロデューサー・有科香屋子(ありしなやかやこ)。同クールにオンエアする『サウンドバック 奏の石』、通称『サバク』の監督で、ある事に迷っている斎藤瞳。『サバク』の舞台探訪で観光の活性化を期待している公務員に戸惑うアニメーター・並澤和奈。

おすすめポイントは、全ての登場人物たちに共通する、自分を取り巻く人々との悩みや葛藤を抱えながらも、大好きな「アニメ」に情熱を注ぐ、ひたむきな姿勢です。一見、華やかそうなアニメ制作現場の裏側の厳しさが分かります。

私がこの本を選んだ理由は、以前、あるアニメ監督取材した番組で見た、高い技術力や、視聴者を飽きさせない工夫、結束力の固さが印象的で、この現場がテーマの小説があればと思っていたからです。

本書を読めば、今までよりアニメと、その制作者への見方が変わり、アニメに対する新たな発見があるかもしれません。ぜひ、手にとってみてください。

なお、本作品は今年度の本屋大賞にノミネートされています。

いま、選書ツアー
コーナーに
展示中!

選書ツアーと『うれしい悲鳴をあげてくれ』について

選んだ人 加藤夏海（日本語日本文化学科3年）

1月某日、わたしは二度目の選書ツアーに参加しました。一度目の選書ツアーは書店の方にご協力いただくような大規模なものでしたが、今回は少人数で静かにじっくりと本を選ぶという形式だったため、各々の個性が反映された選書になっているのではないのでしょうか。

選書ツアーのよいところは、主に二つあると思います。

一つ目は、図書館に置く本を学生自ら書店へ赴き選べることです。自分が感銘を受けたおすすめの本や、自分がレポート・論文を書く際に参考にしたい本を他人と共有でき、とても便利です。

そして二つ目は、新たな本との出会いが沢山あることです。今回わたしが出会った中で印象に残ったのは、『うれしい悲鳴をあげてくれ』（いしわたり淳治著 ちくま文庫 2014年）です。これは、ロックバンド「SUPER CAR」の元メンバーで、現在は音楽プロデューサーとして活動している、いしわたり淳治によって書かれた短編小説・エッセイ集です。普段わたしは、ミステリーやサスペンスといったジャンルを好むため、それ以外のジャンルの本を進んで読むことは滅多にありません。しかし、この『うれしい悲鳴をあげてくれ』に収録されている短編やエッセイは、飽き性のわたしを見事に引き込んでくれるほど話のテンポがよく、言葉の使い方がうまく、読んでいるだけで爽快な気分になります。ぜひおすすめしたい一冊となりました。

このたび選書ツアーに参加し、本の面白さや、本を読むことで得られる充実をあらためて感じました。次回の選書ツアーがたのしみです。

いま、選書ツアー
コーナーに
展示中!

『マルドゥック・スクランブル (改訂新版)』 沖方丁 著

(早川書房 2010年)

選んだ人 青木祐香里 (日本語日本文化学科3年)

知っている人も多いかもしれない。舞台は“天国への階段”をシンボルとするマルドゥック市。ある時、主人公である少女娼婦ルーン=バロットは、賭博師シエルの策略により爆炎で重傷を負う。瀕死の彼女を救ったのは、事件担当者にしてネズミ型万能兵器のウフコックと、ドクターのイースター。一命をとりとめたバロットはウフコックたちと共にシエルが所属する組織の犯罪を追うが、その前に敵の事件担当官であるボイルドが立ちはだかる。強敵たちと銃撃戦を繰り広げるなか、バロットとウフコックはシエルが運営するカジノで勝負を挑むことに。生きる意味を考え始めたとき、バロット(少女)の闘いが始まる。

「改訂新版」とある通り、この本には旧版が存在する。旧版は全三巻。「改訂新版」は、旧版全三巻の素晴らしさを損なわずに一冊にまとめられた「お得な」作品とも言える。実は旧版の方から先に読んでしまった私だが、内容としてはほとんど変わらないので時間がない人には「改訂新版」をおすすめする。しかし、「改訂新版」と旧版の違いを探るのも楽しいかもしれない。「改訂新版」の一冊を読んだらぜひ旧版の三冊も読んでほしいものだ。

この作品は言わずもがなハードボイルドな本格SF小説だ。しかし、それだけの枠で納めてしまうのは少し惜しいと私は思う。ネズミと少女の「恋愛物語」として読むのもよし。「哲学」として読むのもよし。思い切って「ジェンダー論」から批判して読むのもよし。それだけ内容が濃い。ぜひ、読破した時の達成感をあなたにも味わってほしい。

ΑΛΕΞΑΝΔΡΕΙΑ (アレキサンドレイア) no.45 2015.4

恵泉女学園大学図書館報

発行 恵泉女学園大学図書館 〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1

Tel. 042-376-8441/Fax.042-376-8441